

熊本復興支援プロジェクト始動

～平成28年(2016年)熊本地震からの復興のために熊大ができること～

熊大の資源を熊本復興に

- 地域とともに発展成長してきた熊大にとって、地域復興は大学の早期復旧と同様に最重要課題
- 地元の総合大学だからこそ集積できた教育研究資源を活用し、早期の熊本復興に貢献するため、
 - ①住民とともに歩む被災地域の創造的復興(サテライトラボ=まちづくり拠点の設置)
 - ②阿蘇火山性地質に起因する二次災害の緩和(自然災害に柔軟に対応した復旧復興)
 - ③水資源の研究成果に基づく、美しい熊本の水環境の回復(海・大気・地下の水循環)
 - ④熊本城をはじめとする歴史的構造物等の復旧・復元(最新技術による熊本城復元支援)
 - ⑤熊本の産業の創造的復興支援(企業のニーズと大学のシーズによる新産業の創出)
 - ⑥先端医療の地域への提供
 - ⑦地域コミュニティの機能再生(災害学生ボランティア)



地域の地(知)の拠点である熊大が熊本復興の推進力!

熊本復興支援プロジェクト始動に向けて

【熊本復興支援プロジェクトの設置と始動】

- 熊本大学は地元の国立大学として、熊本に関する課題研究に取り組んできた。
- 震災後、本学の多くの研究者からこれまでの研究成果を地域復興に活かさないかと、様々な提案がなされた。
- 研究者の熊本復興への想いと地域とともに発展を遂げてきた本学の使命として、学長を総括リーダーとする「熊本復興支援プロジェクト」を設置する。
- 自治体等の地域の声をもとに研究者の発意による復興プロジェクトを再編成し、「熊本復興支援プロジェクト」の下に復興プロジェクトチームを結成する。

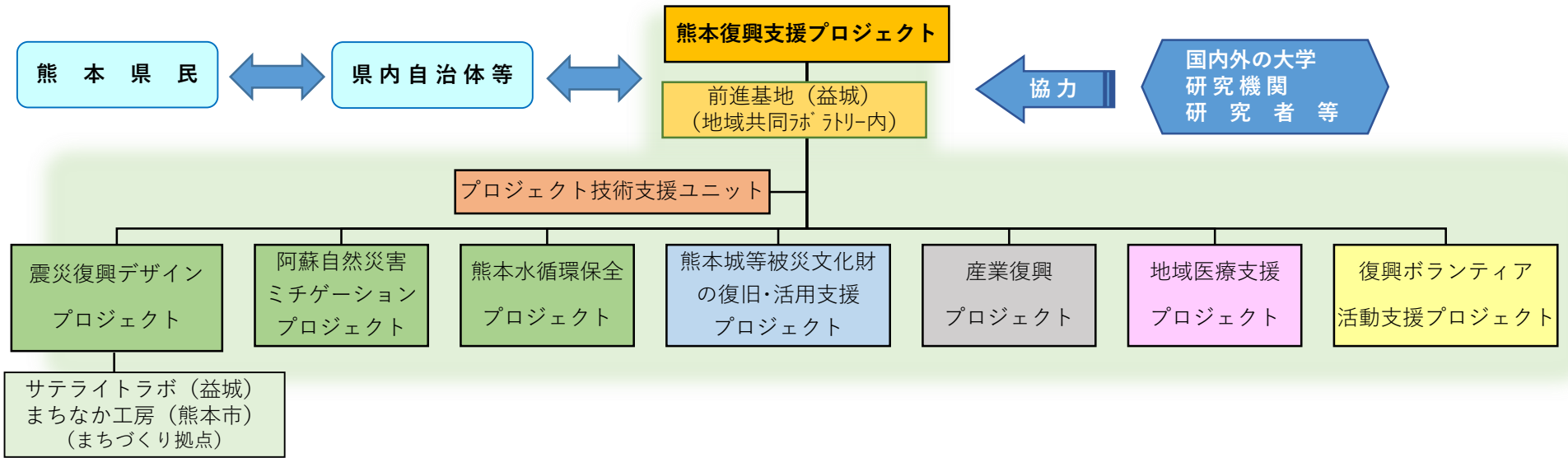
- 特徴：
- ① 熊大が持つ知的資源を熊本地方の復興に有効に活用するため、各復興プロジェクトの連携や統括を柔軟に行う。
 - ② 国や県を含む自治体と連携し、情報交換、具体的取り組みの協力体制により復興を効率よく素早く行う。
 - ③ 国内外の大学、研究機関、研究者等との協力により、復興を強力に推進する。

原則メールでお願いします

連絡先：fukko-sien@jimui.kumamoto-u.ac.jp
各プロジェクトは連絡網に記載
096-342-3300

『熊本復興支援プロジェクト』 平成28年6月14日：設置

- 総括リーダー：学長 原田 信志
- 副総括リーダー：理事・副学長（研究・社会連携担当） 松本 泰道
大学院先端科学研究部・教授 柿本 竜治



各復興プロジェクトの特徴

震災復興デザインプロジェクト

- リーダー：柿本竜治（大学院先端科学研究部教授）
e-mail: kakimoto@kumamoto-u.ac.jp
- 主な連携機関：国土交通省、熊本県、益城町等
- 特徴：被災地での都市計画やまちづくりは、通常の何倍もの速度で進められる。短期間に、行政と住民の間で地域の将来像が共有されないと、復興の足かせになる。熊本大学は、被災地にサテライトラボなどを設け、復興の現場で熊本大学の専門家が住民と対話しながら、地域の将来像を描く支援を行う。

熊本水循環保全プロジェクト

- リーダー：川越保徳（大学院先端科学研究部教授）
e-mail: goshi@kumamoto-u.ac.jp
- 主な連携機関：熊本県、熊本市等
- 特徴：阿蘇山系から有明海に流れる河川の流域や、熊本の豊かな地下水を育み、かつその恵みを受ける地域での水の循環システムと水質に対し、熊本地震が与えた影響を明らかにする。さらに、今後将来に向けた堅牢で健全な水循環の維持と地下水資源を保全するためのランドデザインを創出する。

地域医療支援プロジェクト

- リーダー：水田博志（医学部附属病院長・副学長）
e-mail: mizuta@kumamoto-u.ac.jp
- 主な連携機関：熊本県、熊本市、県医師会等
- 特徴：地域住民が安心して暮らせる熊本を取り戻すため、先端医療による地域医療支援を行う。

復興ボランティア活動支援プロジェクト

- リーダー：安部美和（政策創造研究教育センター特任助教）
e-mail: m-abe@kumamoto-u.ac.jp
- 主な連携機関：熊本市、益城町等
- 特徴：災害復興から日常生活へ向けた生活環境の移行の中で、災害復興の各ステージに応じ、学生ボランティアの協働や大学の知的資源、専門性を活かしたコミュニティ支援を実施し、自然災害に対するしなやかでしたたかな地域社会の復興に寄与する。

阿蘇自然災害ミテゲーションプロジェクト

- リーダー：松田博貴（大学院先端科学研究部教授）
e-mail: hmat@sci.kumamoto-u.ac.jp
- 主な連携機関：国土交通省、熊本県、南阿蘇村等
- 特徴：火山性地質という特異性による、地すべり、土石流、泥流、アースフローなどの山体崩壊の自然災害発生メカニズムの解明と、崩壊堆積物による今後の二次災害などへの適切な防災・減災対策を通じて、将来にわたり阿蘇の美しい風景を地域産業、観光資源として享受できる自然災害に柔軟に対応した社会づくりに挑戦する。

熊本城等被災文化財の復旧・活用支援プロジェクト

- リーダー：山尾敏孝（大学院先端科学研究部教授）
e-mail: tyamao@kumamoto-u.ac.jp
- 主な連携機関：文化庁、熊本県、熊本市、阿蘇市等
- 特徴：熊本城をはじめとする被災文化財や歴史的建造物の復旧・活用を支援する仕組みを構築し、熊本県と熊本市との連携を密に取り、大学として行うべき役割を実施する。

産業復興プロジェクト

- リーダー：松本泰道（理事・副学長・くまもと地方産業創生センター長）
e-mail: yasumi@kumamoto-u.ac.jp
- 主な連携機関：自治体、経済団体等
- 特徴：熊本大学の知的資源を有効に活用し、くまもと地方産業創生センターを中心に、COC+参加大学、自治体や経済界等と連携しながら、被災した1次2次3次産業の復旧・復興を支援し、ベンチャー等新産業の創出により、震災前よりも活性化した熊本を創生する。

プロジェクト技術支援ユニット

- リーダー：尾原祐三（大学院先端科学研究部教授）
e-mail: obara@kumamoto-u.ac.jp
- 特徴：各種センサー、レーダ技術、ドローン技術、ロボット技術などの最新のセンシング・モニタリング技術や画像処理、ビックデータ処理などの様々なデータ解析法を用いて復興プロジェクトを支援する。

地域や自治体のニーズに応えるため
大学シーズをプロジェクト化し
復興に役立てる



連携・協力

国・県・市町村

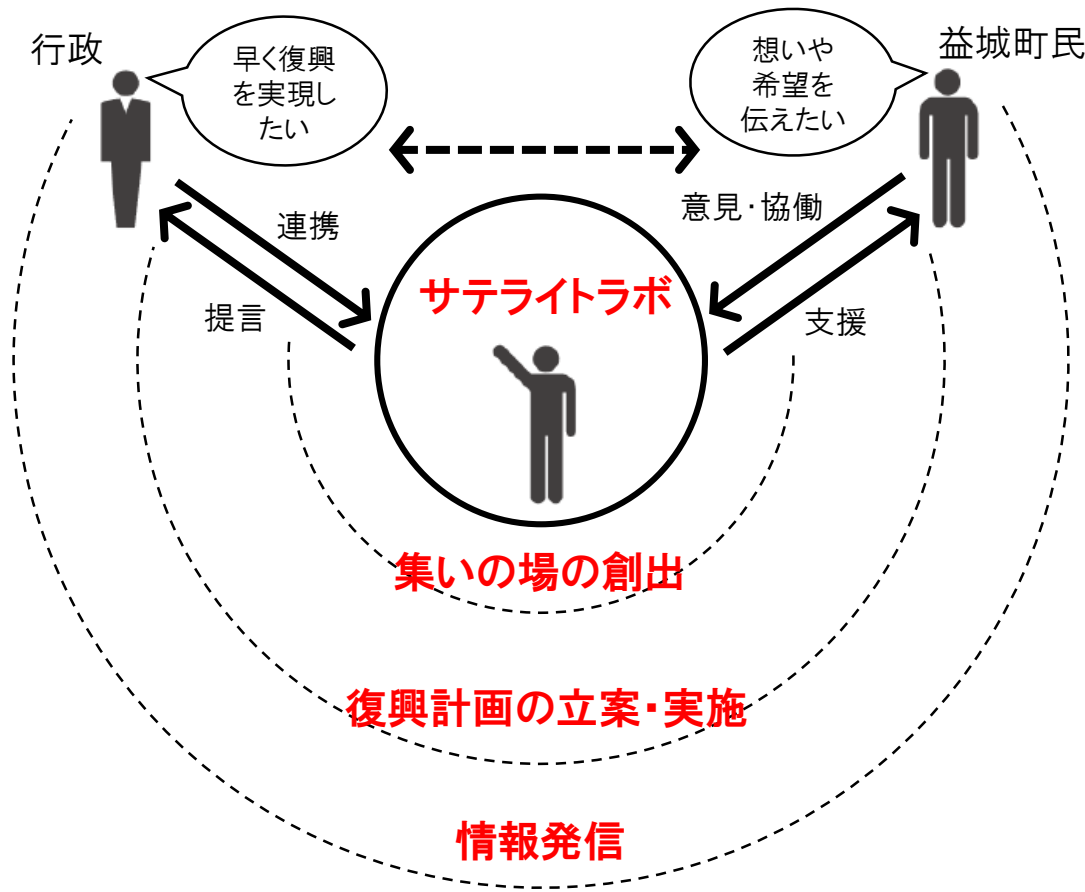
国内外の大学・研究機関

経済団体等

サテライトラボ(まちづくり拠点)の設置(震災復興デザインプロジェクト)

- ◎ 特に被害が集中した「益城町」(住民、行政とも甚大な被害)
- ① 【住民とともに】益城町の被災者、住民と協働し、彼らが落ち着いて将来の姿をデザインできるようなまちづくり拠点
- ② 【行政とともに】市民の想いを集約し、復興計画へ反映させる行政支援
- ③ 被災者支援の学生ボランティアの拠点としても機能

持続可能なコミュニティを創出・支援する場の構築



候補地:秋津川河川公園
・益城町における住民活動の中心的な場
・自然に触れ合い、リフレッシュしながら、
未来の益城に思いを馳せる場